

他館で活躍する所蔵模型のご紹介

奈良市庁舎「第一次大極殿」/ミュージアム飛驒「朱雀門」

博物館や資料館などでよく見かける「模型」。平城宮跡資料館には、第一次大極殿院と発掘調査の過程の模型、遺構展示館には内裏と磚積基壇建物の模型が展示されています。奈良文化財研究所の模型は、遺跡の当時の状況を再現し、外観や内部の構造を説明・理解するために設計・制作されたものです。

奈文研では、このほかにもさまざまな模型を所蔵しています。そのなかには、他の博物館などで展示しているものもあります。今回は、それらの模型をご紹介します。

【第一次大極殿 模型 (1/10)】

かつて遺構展示館にあった模型です。現在は、奈良市役所の1階ロビーに展示されています。昨年の平城遷都1300年祭を機に移設しました。このほか市役所には奈文研所蔵の平城京出土瓦や銭貨が展示されており、訪れる市民の方々に奈良の都を味わっていただける空間になっています。

【朱雀門 模型 (1/10)】

昨年度は島根県立出雲歴史博物館の企画展や飛鳥資料館のキトラ展で展示されました。このたび、藤原京や平城京の造営に飛驒の匠が活躍したことが縁となって、6月からリニューアルオープンする岐阜県高山市のミュージアム飛驒の常設展示に貸出すことになりました。(企画調整部 渡邊 淳子)



朱雀門模型

『キトラ古墳壁画フォトマップ資料』

2004年、キトラ古墳石室内の調査に先立ち、壁画の正確な図面と写真を作成するため、フォトマップ撮影をおこないました。フォトマップとは、撮影したデータを解析・合成することにより、計測対象物に接触せず正確な図面と画像を得る方法です。写真室では初めておこなう手法であったため、撮影までは試行錯誤の連続で、撮影に入ってからさまざまなトラブルに見舞われました。最終的な撮影総数は、計測用写真等も含めると1,200カットを越えます。そのかいもあり出来上がったフォトマップは1mで±3mmというきわめて精度の高いものになりました。また、この成果が2006年におこなった高松塚古墳におけるフォトマップ撮影にも大いに活かされ、さらに高精度なデータを得ることにもつながりました。

この度、高松塚古墳に続きキトラ古墳においてもその成果を知っていただくために、『キトラ古墳壁画フォトマップ資料』(奈良文化財研究所史料第86冊)を刊行しました。高松塚古墳でも好評を得たブルーレイハイビジョン動画(映像時間17分)もあわせて作成しており、ナレーションは日本語以外に英語・中国語・韓国語で聞くことができます。図版に載せている各壁画は一部を除きフォトマップデータを基にしているため、歪みのない正確な形をしています。詳細な観察がおこなえるように実寸での掲載にこだわり、星宿にいたっては約84×74cmの用紙に印刷し、巻末折り込みにしています。是非一度開いていただき、壁画の実際の大きさを体感してください。(企画調整部 岡田 愛)



キトラ古墳壁画フォトマップ資料